

鉢物用マーガレット新品種 ‘ブリアンルージュ’ および ‘シェリエメール’ の育成

武藤貴大^{1)a}・勝岡弘幸²⁾・岩崎勇次郎^{3)a}

¹⁾農林技術研究所本所, ²⁾農林技術研究所伊豆農業研究センター, ³⁾農芸振興課

Breeding of New *Argyranthemum* Cultivars ‘Brillant Rouge’ and ‘Cherie Mere’ for Pot Plants.

Takahiro Muto^{1)a}, Hiroyuki Katsuoka²⁾ and Yujiro Iwazaki^{3)a}

¹⁾Shizuoka Res. Inst. Agric. and For., ²⁾Izu Agricultural Research Center/ Shizuoka Res. Inst. Agric. and For.,
³⁾Agriculture and Horticulture Development Division.

Abstract

New *Argyranthemum* cultivars ‘Brillant Rouge’ and ‘Cherie Mere’ were cultivated for pot plants and were successfully registered for Plant Variety Registration System in Japan. In 2012, ‘Brillant Rouge’ was selected from seedlings obtained by crossing ‘Lovely Friend’ as the seed parent and breeding line ‘10-3-4’ as the pollen parent. In 2012, ‘Cherie Mere’ was selected from natural hybrid seedlings of seed parent ‘10-3-13’, the breeding line. ‘Brillant Rouge’ is a medium-sized type with single-flowered red ray florets. The cultivar has a compact form and is suitable as a potted plant. This cultivar began flowering by the end of the year and earlier than existing cultivars ‘Lovely Friend’ and ‘Hot Berry’. ‘Cherie Mere’ is a medium-sized, anemone-type, pink ray florets. The cultivar has excellent branching, spreads easily, and is suitable as a potted plant. This cultivar began flowering by the end of the year and its growth speed was equivalent to existing cultivar ‘Cutty Mice’.

キーワード：鉢物, 品種, マーガレット

I 緒 言

マーガレット(*Argyranthemum frutescens*)は, スペイン領カナリア諸島¹⁾とポルトガル領マデイラ諸島¹⁰⁾を原産とし, 23種¹²⁾または24種²⁾の原種がある多年性キク科植物である. 日本には1860年代または1870年代に導入され¹¹⁾, 現在では, 春の切花や鉢花として利用されている.

農林技術研究所伊豆農業研究センターでは, 前身である静岡県有用植物園時代の1960年代より, マーガレットの切り花生産が盛んな南伊豆地域からの要望を受け, 切り花用マーガレットの品種育成・導入を行ってきた³⁾.

その後, 静岡県東部地域の鉢物生産者から鉢物用マーガレット品種育成の要望を受け, 多彩な花色やコンパクト

な草姿, 年内から出荷可能な開花性を指標として品種育成を進めた. これまでに, 鉢物用マーガレットとして, ‘ホワイトリップル’ (白色, 一重)⁹⁾の育成から, ‘チェリルマイル’ (桃色, 丁字)⁸⁾, ‘スイートリップル’ (白色, 八重)⁶⁾, ‘サンデーリップル’ (白色, 一重)⁶⁾, ‘シルクボール’ (白色, 八重)⁷⁾, ‘ホワイトリップルピュア’ (白色, 一重)⁷⁾, ‘キャンディマイル’ (鮮赤紫色, 一重)⁷⁾などの品種を育成し, 多彩な鉢物用マーガレットを出荷する産地としての差別化, 販売およびブランド力向上に貢献した. しかし, 産地からは花色および花型の異なる品種の展開についてさらなる要望がある. 本報では, 新たな鉢物用マーガレット品種として, 赤花・一重咲きの ‘ブリアンルージュ’, 桃花・丁字咲きの ‘シェリエメ

^{a)}研究実施時：農林技術研究所伊豆農業研究センター

ール’の2品種を育成したので、その育成経過と特性について報告する。

Ⅱ 材料及び方法

1 ‘ブリアンルーージュ’の育成経過

(1)一年次選抜：2012年4月19日に静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター(賀茂郡東伊豆町)のガラス温室内において、‘ラブリーフレンド’(桃色・一重)を種子親に、育成系統‘10-3-4’(赤色・一重)を花粉親として交配した。10月31日に播種し、その後、育苗用温室内で発芽させ、12月11日にガラス温室内ベッドに定植した。花色および分枝性を指標に選抜を行った。

(2)二年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を確認するために、開花時期を調査した。対照品種として‘ムーンライト’(黄色・一重)と‘キューティーマイス’(桃色・丁字)を用いた。栽培は、センター内のガラス温室で、2013年6月3日に挿し芽、7月1日に2.5号ポットに鉢上げし、7月17日に5号ポットに定植し、8月7日に摘心を行った。鉢物の特性は、開花盛期である2014年3月下旬に、花色、花型、花径、草型等を1品種4株調査した。

(3)三年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を複数年確認するために、開花時期を調査した。対照品種として‘ラブリーフレンド’(桃色・一重)と‘サンデーリップル’(白色・一重)を用いた。栽培は、センター内のガラス

温室で、2014年6月3日に挿し芽、6月23日に2.5号ポットに鉢上げし、7月22日に5号ポットに定植し、8月11日に摘心を行った。鉢物の特性は、開花盛期の2015年4月に、花色、花型、花径、草型等を1品種4株調査した。

(4)生育開花特性調査：品種登録に向けた特性調査を行うために、開花時期等を調査した。対照品種として種子親である‘ラブリーフレンド’を用いた。栽培は、センター内の生育開花特性調査用ガラス温室で、2014年6月3日に挿し芽、6月23日に2.5号ポットに鉢上げし、7月25日に6号ポットに定植し、8月11日に摘心を行った。鉢物の特性は、2014年12月に花色、花型、花径、草丈、草型、花粉の有無、葉の形質等を1品種3株調査した。

(5)現地適応性：三年次選抜で有望と判断された系統については、2015年6月中旬に挿し芽し、7月1日に3.5号ポットに鉢上げした。鉢上げ後、下田市、三島市、沼津市(2か所)、富士宮市の計5か所の鉢物生産者に引き渡し、現地適応性を評価した。7月中旬に摘心を行い、摘心後の栽培管理は現地慣行、‘ラブリーフレンド’および‘ホットベリー’(赤色・一重)を対照品種とし、品種特性について観察調査するとともに、育成系統の有望性を判断した。

2 ‘シェリエメール’の育成経過

(1)一年次選抜：2012年4~6月に静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター(賀茂郡東伊豆町)のガラス温室内において、育成系統‘10-3-13’(桃色、半八重)を種子親とし

表1 二年次選抜に供試した鉢物系統の特性

系統名	開花時期 (日)	花色		花型	花径 ¹⁾ (cm)	花盤直径 ¹⁾ (mm)	花粉 ²⁾	舌状花長 ¹⁾ (cm)	舌状花幅 ¹⁾ (cm)	草型	選抜 ³⁾
		舌状花弁	筒状花								
P12-26-1	11月11日	赤	赤	一重	4.2	10	無	1.8	0.4	丸	○
P12-26-2	1月28日	桃	黄茶	一重	4.6	10	有	2.0	0.5	丸	×
P12-114-1	10月28日	桃	桃	丁字	4.7	23	無	2.1	0.6	開張	○
P12-114-2	12月26日	黄	-	一重	- ⁴⁾	-	無	-	-	-	×
ムーンライト	12月20日	黄	黄	一重	4.0	9	有	1.7	0.4	開張	
キューティーマイス	11月6日	桃	桃	丁字	4.4	17	無	2.2	0.5	開張	

1) 花径は3花の平均値、花盤直径、舌状花長・幅は平均的なものを測定

2) 正常な葯を有するもの：有、花粉が確認できないもの：無

3) 有望：○、淘汰：×

4) 正常に開花しなかったため、未調査

表2 三年次選抜に供試した鉢物系統の特性

系統名	開花時期 (日)	花色		花型	花径 ¹⁾ (cm)	花盤直径 ¹⁾ (mm)	花粉 ²⁾	舌状花長 ¹⁾ (cm)	舌状花幅 ¹⁾ (cm)	草型	選抜 ³⁾
		舌状花弁	筒状花								
P12-26-1	12月2日	赤	赤	一重	4.2	10	無	1.9	0.4	丸	○
P12-114-1	10月14日	桃	桃	丁字	4.6	23	無	2	0.5	丸	○
ラブリーフレンド	1月16日	桃	黄橙	一重	4.7	11	有	2.2	0.5	丸	
サンデーリップル	10月10日	白	黄	一重	4.6	13	有	2	0.5	丸	

1) 花径は3花の平均値、花盤直径、舌状花長・幅は平均的なものを測定

2) 正常な葯を有するもの：有、花粉が確認できないもの：無

3) 有望：○

た自然交雑種子を得た。10月31日に播種し、その後、育苗用温室内で発芽させ、12月11日にガラス温室内ベッドに定植した。花色および分枝性を指標に選抜を行った。

(2)二年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を確認するために、開花時期を調査した。対照品種として‘ムーンライト’と‘キューティーマイス’を用いた。栽培はセンター内のガラス温室で、2013年6月3日に挿し芽、7月1日に2.5号ポットに鉢上げし、7月17日に5号ポットに定植し、8月7日に摘心を行った。鉢物の特性は、開花盛期の2014年3月下旬に、花色、花型、花径、草型等を1品種4株調査した。

(3)三年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を複数年確認するために、開花時期を調査した。対照品種として‘ラブリーフレンド’と‘サンデーリップル’を用いた。栽培は、センター内のガラス温室で、2014年6月3日に挿し芽、6月23日に2.5号ポットに鉢上げし、7月22日に5号ポットに定植し、8月11日に摘心を行った。鉢物の特性は、開花盛期の2015年4月に花色、花型、花径、草型等を1品種4株調査した。

(4)生育開花特性調査：品種登録に向けた特性調査を行うために、開花時期等を調査した。対照品種として‘サンデーリップル’、‘キューティーマイス’を用いた。栽培はセンター内の生育開花特性調査用ガラス温室で、2016年6月13～17日に挿し芽、7月21日に5号ポットに鉢上げ、8月2日に摘心した。鉢物の特性は、第一花開花時に、花色、花型、花径、草丈、株張、花首長および一次分枝数を1品種3株調査した。

(5)現地適応性：三年次選抜で有望と判断された系統について、2016年6月中旬に挿し芽し、7月1日に3.5号ポットに鉢上げた。鉢上げ後、下田市、三島市、伊豆の国市、沼津市、富士宮市の計5か所の鉢物生産者に引き渡し、現地適応性を評価した。7月中旬に摘心を行い、摘心後の栽培管理は現地慣行、‘サンデーリップル’およ

び‘キューティーマイス’を対照品種とし、品種特性について観察調査するとともに、育成系統の有望性を判断した。

III 結 果

1 ‘ブリアンルージュ’の育成経過

‘ブリアンルージュ’の育成経過を図1に示した。

(1)一年次選抜：2012年4～6月に130交配組合せ(自然交雑実生を含む)で交配し種子を獲得した。これらのうち‘ラブリーフレンド’を種子親に、育成系統‘10-3-4’を花粉親として交配して得られた種子を播種した。発芽した26個体を2012年12月11日にガラス温室内ベッドに定植した。この中から、既存品種にはない花色で分枝が良好な2個体を選抜し、‘P12-26-1’および‘P12-26-2’の系統名を付与した。

(2)二年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を確認するために、2013年度に二年次選抜を実施した(表1)。その結果、‘P12-26-1’は、無花粉で中輪タイプの一重咲きの赤花で、6月挿し芽作型では11月11日に開花した。また、開花時の草姿がコンパクトで、鉢物向けの草姿であることから、二年次選抜で‘P12-26-1’を選抜した。

‘P12-26-2’は中輪タイプの一重咲きの桃花で、初開花が1月28日と年内に開花しなかったことから、三年次選抜に供試しなかった。

(3)三年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を複数年確認するために、2014年度に三年次選抜を実施した(表2)。その結果、‘P12-26-1’は12月2日に開花し、前年度と同様の早期開花性が確認されたため、‘伊豆38号’の系統名を付与し、2015年11月に育成を完了した。

(4)生育開花特性調査：品種登録に向けた特性調査のために、2014年度に実施した。‘伊豆38号’は一重咲きの

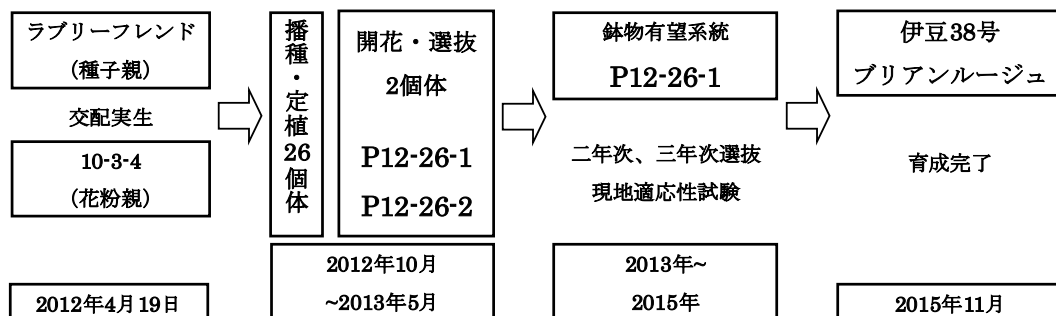


図1 ‘ブリアンルージュ’ (伊豆38号)の育成経過

表3 ‘ブリアンルージュ’ (伊豆38号)の生育開花特性(所内試験)

系統名 品種名	開花 時期 ¹⁾	花色		花型	花径 (cm) ²⁾	草丈 ³⁾	草型 ³⁾	花粉の 有無	葉色 ³⁾	葉の欠刻 ³⁾	葉縁の鋸歯 ³⁾
		舌状花	筒状花								
ブリアンルージュ	10月中	赤	赤	一重	4.2	中	開帳	無	暗緑	深	鋭
ラブリーフレンド ⁴⁾	11月下	桃	黄	一重	4.7	中	丸	有	灰緑	中	鈍

1) 作型は、2014年6月3日に挿し芽、6月23日に2.5号ポリポットに鉢上げ、7月25日に6号ポリポットに鉢上げ、8月11日に摘心。

2) 各系統3株調査

3) 品種登録特性調査基準に準拠し特性を記載

4) 対照品種

表4 ‘ブリアンルージュ’ (伊豆38号)の生育開花特性および現地生産者の評価(現地試験)

系統名・品種名	開花時期 ¹⁾	花色	花型	花径	草丈 ²⁾	現地生産者の評価 ³⁾
ブリアンルージュ	10月上	赤	一重	中	中	開花が早い (Z,Y,X,W,V) 草姿が開張型のため、栽培しやすい (Z,Y,X,W,V) 無花粉がよい(Z,Y,X,V)
ラブリーフレンド ⁴⁾	11月中	桃	一重	中	低	
ホットベリー ⁴⁾	11月下	赤	一重	小	高	

1) 富士宮市生産者ほ場での特性。2015年6月中旬に挿し芽、7月1日に3.5号ポリポットに鉢上げ、7月中旬に摘心。以降は現地慣行で栽培した。

2) 各系統10株を調査。草丈は品種登録特性調査基準に準拠し特性を記載

3) 試作場所：沼津市 (Z、Y)、下田市 (X)、三島市 (W)、富士宮市 (V)

4) 対照品種



図2 ‘ブリアンルージュ’ (伊豆38号)の開花時の
花弁と草姿

赤花で、6月挿し芽作型における開花開始は10月中旬と、‘ラブリーフレンド’よりも開花が早かった。また、草型が開帳型で、無花粉であった(表3, 図2)。

(5)現地適応性：富士宮市の生産者ほ場で調査した結果、‘伊豆38号’は、6月挿し芽作型において、開花時期が10月上旬と対照品種よりも早期に開花した。生産者からは、開花時の草姿のバランスが良く草型が開張型であること、無花粉である点が評価された(表4)。

(6)品種登録：‘伊豆38号’は、生育開花特性調査および現地適応性試験の評価を受け、品種名を‘ブリアンルージュ’

として2016年4月4日に品種登録を出願、2016年7月27日付けで出願公表、2019年1月23日付けで品種登録(第27143号)された⁹⁾。

2 ‘シェリエメール’の育成経過

‘シェリエメール’の育成経過を図3に示した。

(1)一年次選抜：2012年4~6月に130交配組合せ(自然交雑実生を含む)で交配を実施して種子を獲得した。これらのうち育成系統‘10-3-13’を種子親として自然交雑して得られた種子を播種した。発芽した217個体を2012年12月11日にガラス温室内ベッドに定植した。この中から、草丈が低く花型が良好な2個体を選抜し、‘P12-114-1’および‘P12-114-2’の系統名を付与した。

(2)二年次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を確認するために、2013年度に二年次選抜を実施した(表1)。その結果、‘P12-114-1’は、中輪タイプの丁字咲きの桃花で、6月挿し芽作型では10月28日に開花した。加えて、分枝性に優れており、鉢物向けの草姿であったことから、

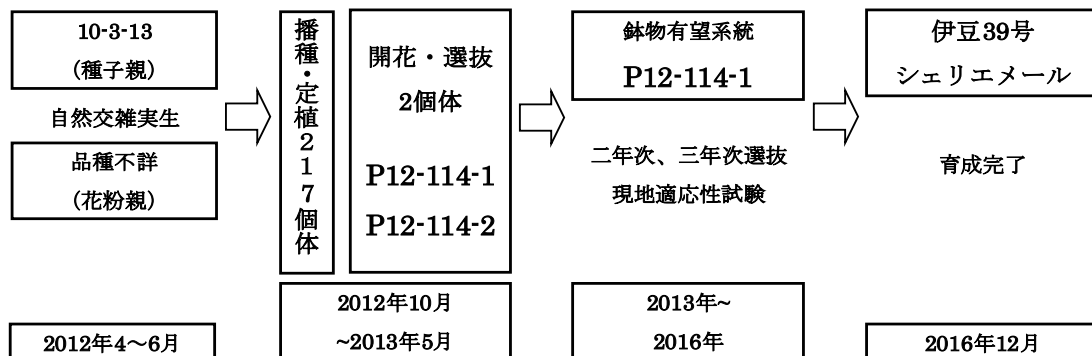


図3 ‘シェリエメール’ (伊豆39号)の育成経過

表5 ‘シェリエメール’ (伊豆 39 号)の生育開花特性(所内試験)

系統名 品種名	開花日 ¹⁾	花色	花型	花径 ²⁾ (cm)	草丈 ³⁾	株張	花首長 (cm)	一次分枝数 (本)
シェリエメール	11月13日	桃	丁字	4.9	やや高	38.8	7.5	7.3
サンデーリップル ⁴⁾	10月30日	白	一重	4.4	中	47.8	15.8	4.0
キューティーマイルス ⁴⁾	11月1日	桃	丁字	4.2	中	38.8	11.7	3.7

1) 作型は、6月13～17日に挿し芽、7月21日に5号ポリポットに鉢上げ、8月2日に摘心。

2) 各系統3株調査

3) 品種登録特性調査基準に準拠し特性を記載

4) 対照品種

表6 ‘シェリエメール’ (伊豆 39 号)の生育開花特性および現地生産者の評価(現地試験)

系統名・品種名	開花時期 ¹⁾	花色	花型	花径	草丈 ²⁾	現地生産者の評価 ³⁾
シェリエメール	9月下旬	桃	丁字	中	中	花色が良い。花型が安定している (Z,Y,X,W,V) 草姿のバランスが良い (Z,Y) 分枝に優れる、増殖効率が良い (Z) 栽培期間を通じて花型・花色の変化が少ない (Z) 花色の退色が少ない(V)
サンデーリップル ⁴⁾	9月中旬	白	一重	小	低	
キューティーマイルス ⁴⁾	10月中旬	桃	丁字	小	中	

1) 沼津市生産者ほ場での特性。6月中旬に挿し芽、7月1日に3.5号ポリポットに鉢上げ、7月中旬に摘心。以降は現地慣行で栽培した。

2) 各系統10株を調査。草丈は品種登録特性調査基準に準拠し特性を記載

3) 試作場所：沼津市 (Z)、伊豆の国市(Y)、富士宮市(X)、三島市 (W)、下田市 (V)

4) 対照品種



図4 ‘シェリエメール’ (伊豆 39 号)の開花時の花弁と草姿

二次選抜で‘P12-114-1’を選抜した。‘P12-114-2’は、小輪タイプの一重咲きの黄花で12月26日に開花した。しかし、樹勢が著しく弱かったため、三次選抜に供試しなかった。

(3)三次選抜：年内出荷を可能とする早期開花性を複数年確認するために、2014年度に三次選抜を実施した(表2)。その結果、‘P12-114-1’は、6月挿し芽作型では10月14日に開花し、前年度と同様の早期開花性が確認されたため、‘伊豆 39 号’の系統名を付与し、2016年12月に育成を完了した。

(4)生育開花特性調査：品種登録に向けた特性調査のために、2016年度に実施した。‘伊豆 39 号’は丁字咲きの桃花で、6月に挿し芽をする作型では、開花日は11月13日と対照品種の‘サンデーリップル’、‘キューティーマイルス’より開花が遅かったが、年内に開花した。‘伊豆 39 号’は、対照品種と比べ、草丈はやや高いものの、一次分枝数が多く、花首長が短かった(表5, 図4)。

(5)現地適応性：沼津市の生産者ほ場で調査した結果、‘伊豆 39 号’は、6月挿し芽作型における開花時期は9月下旬と‘サンデーリップル’より遅く、‘キューティーマイルス’より早期に開花した。生産者からは、分枝性に優れる点、栽培期間を通じて花色の退色が少なく、花型が安定している点が評価された(表6)。

(6)品種登録：‘伊豆 39 号’は、生育開花特性調査および現地適応性試験の評価を受け、品種名を‘シェリエメール’として2017年3月30日に品種登録を出願、2017年10月20日付けで出願公表、2020年3月9日付けで品種登録(第27824号)された⁹⁾。

IV 考 察

選抜について、一年次選抜では花色および花型を、二次選抜、三次選抜は、静岡県で作型への適応性および販売上有益となる早期開花性での選抜を中心に行った。‘ブリアンルージュ’の育成では、‘P12-26-1, P12-26-2’の2系統を一年次選抜して、2013年度に二次選抜を行った。6月挿し芽作型において‘P12-26-1’が11月11日に開花したことから年内出荷が可能であると考えられたため、‘伊豆 38 号’として三次選抜および現地適応性を検討した。

三次選抜では、‘伊豆 38 号’(ブリアンルージュ)は、12月2日に開花し、対照品種の‘ラブリーフレンド’よ

り早く、‘サンデーリップル’よりは遅かった。三年次選抜(2014年)では、花芽分化期である8~9月の日照時間は、曇天日が続き二年次選抜(2013年)と比べ約2割減ったため、開花が約1か月遅れたと推測された。

生育開花特性調査は、‘ブリアンルージュ’の種子親である‘ラブリーフレンド’を対照品種として供試した。その結果、‘ブリアンルージュ’は、対照品種よりも開花時期が早く、年内からの出荷が見込めることが明らかとなった。株が広がりやすく草型が開帳型のため、鉢物・花壇苗などで利用可能と考えられた。また、生育開花特性調査用ガラス温室は、日当たりのよい立地であり、三年次選抜を実施したガラス温室よりも光量が多かったため、開花時期が1か月程度早かったと推測された。

2015年度の現地適応性試験では、早期開花性、草姿、花色および無花粉であることが高く評価された。年内から出荷可能な赤色品種が加わることで、既存の白色や黄色品種等とのミックス出荷が可能となり、販売時期や市場性の拡大が期待される。

‘シェリエメール’の育成では、‘P12-114-1, P12-114-2’の2系統を一年次選抜して2013年度に二年次選抜を行った。6月挿し芽作型において‘P12-114-1’は、年内出荷が可能であると考えられ、草姿やその他の生育も良好であったことから、‘伊豆39号’として三年次選抜および現地適応性を検討した。

三年次選抜では、‘伊豆39号’(シェリエメール)は、10月14日から開花し、対照品種の‘ラブリーフレンド’より早く、‘サンデーリップル’と同等であった。

生育開花特性は、極早生品種の‘サンデーリップル’と花型が類似する‘キューティーマウス’を対照品種として供試した。その結果、‘シェリエメール’は、対照品種の2品種よりも開花がやや遅れるものの11月13日に開花したため、年内の早期出荷が見込める可能性が見出された。また、対照品種の2品種よりも分枝性に優れ、花首長が短かったことから、鉢物や花壇苗などでの利用が可能と考えられた。

2016年度の現地適応性試験では、9月下旬から開花が確認された。生産者からは花色が良好で、花型が安定していること、分枝性に優れ草姿のバランスが良いことが高く評価された。現地適応性試験を行った沼津市の生産者は、山上げ栽培を行ったため、所内で行った生育開花特性の開花時期(11月13日)よりも早く開花したものと考えられた。このため、‘シェリエメール’では、高温期に山上げ栽培することで、初開花を1か月以上早めることが可能であると推測された。

年内から出荷可能な丁字咲きタイプの桃色品種である‘シェリエメール’が加わることで、静岡県鉢物マーガレット栽培において、既存の白色や黄色等の丁字咲き品種とのミックス出荷が可能となる。また、市場関係者から‘シェリエメール’は、その花型と花色から母の日ギフトとして期待できるとの意見があった。年内から出荷できることに加え、新たな提案ができる商材になり得ることは、産地として大きなメリットとなると考えられた。

以上から、鉢物用マーガレット品種の赤花・一重咲きの‘ブリアンルージュ’と桃花・丁字咲きの‘シェリエメール’の育成は、早期開花性を有した既存品種にはない花色や花型の品種が加わることにより、産地の鉢物マーガレット品種の多様化に寄与する。このことは、鉢物マーガレットの10月から5月まで複数の品種展開による他産地との差別化、さらに花壇苗等の新しい需要創出効果による有利販売へ貢献につながると考えられる。

V 摘 要

鉢物用新品種‘ブリアンルージュ’と‘シェリエメール’を育成し、品種登録した。‘ブリアンルージュ’は、2012年に‘ラブリーフレンド’を種子親に、育成系統‘10-3-4’を花粉親として交配し、播種して得た実生個体から選抜した。‘シェリエメール’は同年、育成系統‘10-3-13’を種子親として自然交雑し、播種して得た実生個体から選抜した。‘ブリアンルージュ’は、中輪タイプの一重咲きの赤花で、草姿がコンパクトで鉢物品種に適する。6月挿し芽作型では年内から開花し、‘ラブリーフレンド’および‘ホットベリー’より開花が早い。‘シェリエメール’は、中輪タイプの丁字咲きの桃花で、分枝性に優れ、花首長が短く鉢物品種に適する。6月挿し芽作型では年内から開花し、‘キューティーマウス’と開花時期が同等であった。

謝 辞

本試験の実施にあたり、賀茂農林事務所、東部農林事務所、富士農林事務所及び静岡県東部花き流通センター農業協同組合の担当者及び生産者諸氏のご協力を受けた。ここに記して感謝申し上げます。

引用文献

- 1) Bramwell, D. and Bramwell, Z. (2001): *Wild Flowers of the Canary Islands* (2nd ed.). Editorial Rueda, Madrid. 337~346.
- 2) Bremer, K. and Anderberg, A. (1994): *Asteraceae: Cladistics & Classification*. Timber Press, Oregon. 435~478.
- 3) 稲葉善太郎 (2004): マーガレット. 伊豆花卉連 50 周年のあゆみ. 伊豆花卉園芸組合連合会編集委員会. 静岡. 19~23.
- 4) 稲葉善太郎 (2006): マーガレット新品種 ‘ホワイトトリップル’ の育成と栽培法. 静岡農試研報 50. 29~38.
- 5) 稲葉善太郎 (2010): 鉢物用マーガレット新品種 ‘チェリルミス’ の育成と栽培株からの花色変異個体の獲得. 静岡農林技研報 3. 9~14.
- 6) 稲葉善太郎 (2011): 鉢物用マーガレット新品種 ‘スイートトリップル’ 及び ‘サンデーリップル’ の育成. 静岡農林技研報 4. 67~72.
- 7) 稲葉善太郎 (2013): 鉢物用マーガレット ‘シルクボール’, ‘ホワイトトリップルピュア’ および ‘キャンディミス’ の育成. 静岡農林技研報 6. 25~32.
- 8) 稲葉善太郎 (2019): マーガレットの育種と生産振興への貢献. 園学研 18. 97~106.
- 9) 農林水産省輸出・国際局知的財産課種苗室 (2022): 品種登録. <<http://www.hinsyu2.maff.go.jp/>>
- 10) Press, J. R. and Short, M. J. (1994): *Flora of Madeira*. Intercept Limited, Hampshire. 1~7. 354~356. 514.
- 11) 塚本洋太郎 (1988): 園芸植物大事典.2. 小学館, 東京. 24~30.
- 12) 横井政人(監訳) (2003): ARGYRANTHEMUM. A-Z 園芸植物百科事典. 誠文堂新光社. 東京. 134~135.

